

スリナム月間情勢報告（２０２４年１月）

在トリニダード・トバゴ日本国大使館

１月のスリナム内政、経済、外交月間報告は以下の通り。

１ 内政

- （１１日報道）１９８２年に自らの政権に批判的なジャーナリストや弁護士ら１５名の処刑を指示した罪で禁固２０年の実刑判決を受けたボーターセ前大統領は、健康上の理由から通常の投獄は不可能であると見られており、現在軍病院の敷地内に特別監房が建設されている。
- （１９日ＴＴ報道）検察当局は、ボーターセ前大統領が刑務所への２度に渡り出頭を怠ったことを受け、国際逮捕状の発行手続きを行っているとは発表。
- （２４日報道）ラマディン保健相の自宅が銃撃を受けた。負傷者はなし。

２ 経済

- （９日報道）サントキ大統領は、民間航空部門において、国際民間航空機関（ＩＣＡＯ）の基準に基づきインフラへの投資や職員の訓練等の強化に取り組むため、複数の政府機関で構成される作業部会を設立。
- （１８日報道）国営石油公社は、小型航空機に搭載した重力偏差計で測定した重力偏差の分布から地下の密度構造を推定する空中重力偏差法（ＡＧＧ）で陸上における石油埋蔵量の検出を図るプロジェクトを開始。
- （３０日報道）天然資源省（ＮＨ）は、都市部と農村部における再生可能エネルギーの供給の促進及びエネルギー効率の向上を図るＩＤＢ出資のプロジェクト「ＳＵ－Ｇ１００１」を実施しており、同プロジェクトの一環として、太陽光発電設備の設置に関わる請負業者３社（Elgawa N.V.、Flux Electrical Engineering N.V.、Led Source Experts）と署名式を実施。

３ 外交

- 特になし。